親子のふれあい遊び実践に関する研究

宮下　恭子

【研究目的】

東京成徳短期大学附属第二幼稚園の夏の行事として、毎年８月下旬に短期大学等の教員との連携による「わくわくひろば」の行事が企画され、年長児を対象に「わくわく造形広場」、年中児を対象に「わくわく音楽広場」、そして年少児を対象に「わくわく親子体操教室」を実施している。「わくわくひろば」を開催している。この企画は既に11年以上継続実施され、毎回好評を得ている。

「わくわくひろば」では音楽、造形、体育の活動を通し幼児の感性や表現力、創造性などを高めることや、親子、兄弟姉妹、友達とのふれあいによるコミュニケーション力や共に活動する喜びや楽しさを味わう心を育むことなどを目的として行われ、子どもたちの豊かな人間性の育みが期待される。

年小児親子を対象とした「わくわく親子体操」では、これまでの指導からいくつかのねらいを揚げて、親子の触れあい体操やダンスなどを実践している。そのねらいとは、①親子の身体接触による運動や体操を行い、子どもが親のからだに触れる喜びを十分に味わう。②タオルやバンダナなどの布を使った遊びを紹介して、家庭で手軽に遊びながら運動し調整力を高める遊びを提供する。③リズム要素を含めたダンスや運動を行い、身体のリズム能力を養う。④競争や協力する運動を行い、仲間意識を育てる。⑤親も精一杯運動できる機会をつくる。

以上のようなねらいを中心にプログラムを考案し、実施し好評を得てきたが、この企画は１年に１度の実施のため、その実施結果についての検証は十分できたとは言いがたい。そこで、昨年度から、実施した企画についての成果を検証するために、これまでのビデオ録画に加え、参加者の意見や日頃の様子、及び担任からの聞き取りなどの調査も加え多角的な検証を行い、今後の親子体操をより充実した企画になるように研究をすることにした。

2011年度の調査結果からは以下結論を得た。

①親子体操実施時の録画分析から、親子の身体接触による遊びを十分楽しんで行っている様子や、親自身も運動を楽しんで行っている様子が伺えた。

②アンケート調査から、親子の触れあい遊びの機会が多く持てないが、親は子どもと共にいろいろな遊びを行いたいという願望を持っていることなどが伺えた。

③このような機会が親や子にとって、運動の楽しさや爽快感を味わう楽しい機会となっていることが重要であり、今後の指導法に期待を持つところである。

④運動のあまり好きではない親や子が積極的に参加し楽しめる「わくわく親子体操」の内容をさらに検討していきたいと考える。

しかし、2011年度は、当日の参加者が少なく、調査の対象者が少なかったため、研究結果については妥当性を得たとは結論づけ難い面があった。そこで、本研究では、昨年度の調査を基に、本年もほぼ同様のプログラム内容による親子体操を実施し、昨年度の調査結果を加

えて集計し、妥当性のある検証ができるようにすることにした。検討事項は以下の通りである。

①「わくわく親子体操」の指導のねらいとして揚げた事項がどのように達成されているかを検討する。さらに、今後の親子体操をより魅力ある企画となるようにするために、②この行事に参加した親を対象に、日頃の子どもの身体活動や遊びの様子や親子のふれあい運動や遊びについてのアンケート調査を行い、その実態を把握しながら、今後の指導に向けた参考資料とする。

【研究方法】

1．親子体操実施時の様子をビデオ撮影し､再生によっていくつかの視点をもって分析する。
2．親を対象に、日頃の子どもの身体活動や遊びの様子、親子のふれあい運動や遊びについてのアンケート調査を行い、その実態から検討する。
3．実施に参加したクラス担任から観た当日の様子についてアンケート調査する。

研究対象：

T.S.短期大学付属第二幼稚園年小クラス２クラスの園児、及びその保護者。

調査期日：

2012年８月29日

実施内容：

1）親子体操（ふれあい遊び）・・・約90分（途中休憩15分）

①タオルを使った運動あそび：

ストレッチ

親子で行うストレッチと遊び

（タオルキャッチ、おおきなかぶ、ツイスト汽車ぽっぽ）

競争形式の運動遊び

（魔法のじゅうたん、サーフィン、ライフセーバー、ぞうきんがけレース）

②ポンポンを使ったダンス

チアダンス（となりのトトロ）

親子ダンス（さんぽ）

2）参加者の保護者へアンケート調査

①参加者のプロフィール
②子どものふだんの様子（４件法）
③友だちとの遊びについて（３件法）
④子どもの体力の程度（４件法）
⑤日頃の家庭での遊び時間（３件法）
⑥子どもが今夢中になってしている遊びとは（自由記述）
⑦親子の触れあい遊びについて（３件法）
⑧保護者の運動状況（３件法）
⑨子どもと一緒にやりたい運動やスポーツ、遊び（13の選択肢より選択、複数回答あり）
⑩親子体操に参加しての動機や感想と今後の希望（自由記述）

３）実施補佐の担任へアンケート調査
①親子体操を体験して感じたこと（子どもの様子から、親の様子から）
②実践して気づいたこと、親子体操の希望内容など（自由記述）

【結果】

１．当日のプログラム実施の様子は定点によるビデオ録画を行った。なお、毎年同じ定点での録画を行っている。親子体操（ふれあい遊び）実践の録画再生によって、この企画のねらいが達成し得たか、表１に示す観点から分析を試みた。

表１　親子体操のねらいと分析のための観点

ねらい	録画からの分析観点
①親子の身体接触による運動や体操を行い、子どもが親のからだに触れる喜びを十分に味わうことができたかどうか	・親子双方に笑顔がみられたか ・親子が会話をしているか ・親子のアイコンタクトがあったか
②タオルを使った遊びは、調整力を高める運動として実践されたかどうか ダンスを楽しみながら踊っていたかどうか	・親子の運動において、素早さや、機敏な動きなどがみられたか ・運動の仕方を理解し、すぐに実践することができたか ・ダンスは指導者のリードについていくことができたか
③親も精一杯運動できる機会となったかどうか	・親が意欲的に動き、懸命さ、頑張りがみられたか ・終了時には親子の笑顔があり、楽しさを表す言葉があったか

録画ビデオから、この親子体操のねらいを十分に達成できたと思われる姿が見られた。その事例として、指導者が運動遊びの説明を園児にわかりやすいように説明をしていたが、親は子どもに話しかけ運動の仕方や、アドバイスをしている姿が見られた。また、運動中は常に楽しげな声が響き渡っていた。

親子別々に動く運動では、親が積極的に運動し、楽しさや精一杯行っている姿や笑顔がみられた。競走場面では、手加減なしに運動する場面もあり、母親自らがこの機会を楽しんでいる様子が見られた。

親子の運動では、簡単な運動にも関わらず、あまり経験したことがないようで、初めての経験に、面白さや興味を示す場面が見られ、運動を楽しんでいる姿が見られた。ダンスは、なじみのある曲を使った簡単なものであったので、親子で手をつなぎ楽しそうに笑顔を浮かべて踊っている様子が伺えた。

日頃は、運動が好きではないという母親も、子どもと一緒なら運動しようという姿があり、子どもとのよいコミュニケーションの場ととらえているようであった。

２．参加者の保護者へアンケート調査

１）参加者のプロフィールは表２に示した。

表２　参加者のプロフィール

	人数（2011）	平均年齢	人数（2012）	平均年齢
男児	13	３歳９ヶ月	11	３歳９ヶ月
女児	16	３歳11ヶ月	10	３歳10ヶ月
保護者（母親）	29		21	

2011年と2012年に行った調査を統合して、検討するために、調査項目、および男女間についての独立性の検定を行った。表３－１、表３－２に纏めた結果から、男女間、年度間にはどの項目にも連関性はみられなかった。以下、各調査結果は年度別、年度合算、及び男女別に集計した。

表３－１　調査項目間の独立性の検定

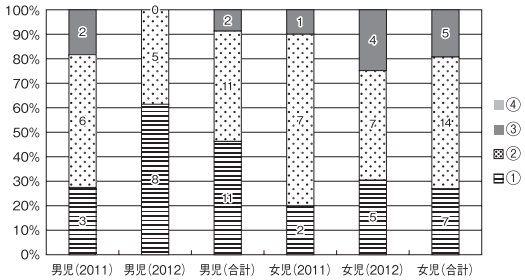
質問項目		χ^2値	棄却限界	連関性（５%水準）
子どものふだんの様子	2011男児×2012男児	4.226	10.597	なし
	2011女児×2012女児	6.733	10.597	なし
	男児（合計）×女児（合計）	2.459	10.597	なし
	2011（合計）×2012（合計）	2.523	10.597	なし
友だちとの遊び	2011男児×2012男児	6.425	10.597	なし
	2011女児×2012女児	0.133	10.597	なし
	男児（合計）×女児（合計）	0.815	10.597	なし
	2011（合計）×2012（合計）	4.274	10.597	なし
子どもの体力	2011男児×2012男児	0.615	10.597	なし
	2011女児×2012女児	1.284	10.597	なし
	男児（合計）×女児（合計）	0.539	10.597	なし
	2011（合計）×2012（合計）	0.651	10.597	なし

表３－２　調査項目間の独立性の検定

質問項目		χ^2値	棄却限界	連関性（５％水準）
日頃の遊び時間	2011男児×2012男児	0.883	3.841	なし
	2011女児×2012女児	1.354	3.841	なし
	男児（合計）×女児（合計）	0.275	3.841	なし
	2011（合計）×2012（合計）	2.311	3.841	なし
親子の触れあい遊び	2011男児×2012男児	3.021	10.597	なし
	2011女児×2012女児	1.688	10.597	なし
	男児（合計）×女児（合計）	0.677	10.597	なし
	2011（合計）×2012（合計）	3.757	10.597	なし
保護者の運動状況	2011男児×2012男児	0.503	10.597	なし
	2011女児×2012女児	6.061	10.597	なし
	男児（合計）×女児（合計）	0.553	10.597	なし
	2011（合計）×2012（合計）	1.456	10.597	なし

２）子どものふだんの様子

子どものふだんの様子について、４件法によって得られた結果は図１に示した。図１より、男女共に身体を使って遊ぶことが好きであるという結果が得られた。

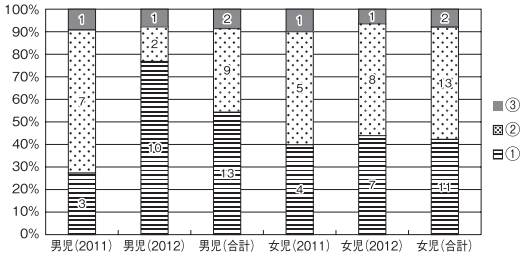


①活発に体を使って遊ぶことが好き
②比較的活発に遊ぶことが好き
③どちらかというと静かに遊ぶことの方が好き
④静かに遊ぶ方が好き

図１　子どものふだんの様子

3）友達との遊びについて

友達との遊びについて、３件法によって得られた結果は図２に示した。図２より、男児の場合、誰とでもよく遊ぶ子の方が多く、女児では決まった子と遊ぶ方が多い傾向であった。

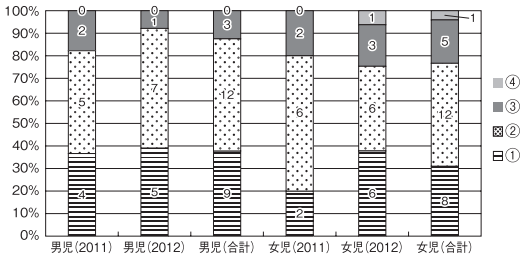


①誰とでもよく遊ぶ
②だいたい決まった子どもとあそぶ
③子どもより大人とよく遊ぶ

図２　友達との遊びについて

4）子どもの体力

子どもの体力について、４件法によって得られた結果は図３に示した。図３より、男児では、①②を含めて「体力がある」と回答している親は88％おり、女児の場合、77％であった。しかし、「どちらかというと体力があまりない」、や「体力がなくつかれやすい」との回答は2012年の女児に増え、全体では23％になっている。

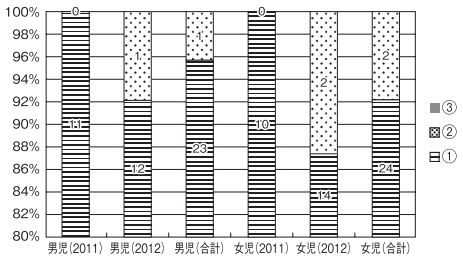


①体力がある
②どちらかというと体力がある
③どちらかというと体力があまりない
④体力がなく疲れやすい

図３　子どもの体力

5）日頃の家庭での遊び時間

日頃の家庭での遊び時間(静的、動的両方を含む)について、４件法によって得られた結果は図４に示した。図４より、昨年度と比較して、自由に遊ぶ時間が減少している傾向にある。



①自由に遊ぶ時間が十分ある
（２時間以上）
②自由に遊ぶ時間があまりない
（１～２時間）
③自由に遊ぶ時間がほとんどない
（１時間以内）

図４　日頃の家庭での遊び時間

6）子どもが今夢中になっている遊び

子どもが今夢中になっている遊び（室内、屋外どちらでも）について、表４－1. 表４－２は自由記述によっていくつでもあれば書いてもらったものをまとめたものである。その結果、男児では多い遊びは、ごっこ遊び、電車遊び、ブロック、サッカー、プールであった。女児ではままごと、人形遊び、遊具・公園遊び、自転車・キックボードなどであり、屋内、屋外ともに好まれる遊びがあるようであった。

表４－１　子どもが今夢中になっている遊び

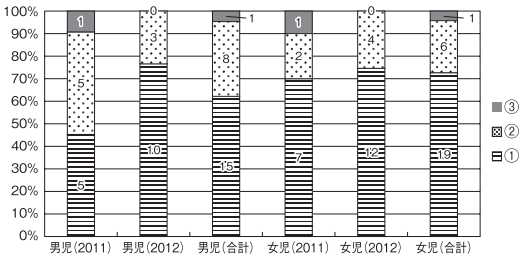
	男児（2011）	男児（2012）	男児（合計）
ごっこ遊び（ヒーロー・戦いごっこ）	5	5	10
電車（プラレールなど）	4	3	7
ブロック	5	1	6
サッカー（ボール遊び）	2	4	6
プール	0	5	5
遊具遊び・公園遊び	2	1	3
トランプ・ゲーム・パズル	0	3	3
自転車・キックボード	0	3	3
絵本	2	1	3
TV ゲーム・ゲーム機・DVD	1	2	3
水遊び	0	2	2
泥団子・砂遊び	0	2	2
製作	2	0	2
かけっこ・追いかけっこ	1	1	2
お絵かき	2	0	2

表４－２　子どもが今夢中になっている遊び

	女児（2011）	女児（2012）	女児（合計）
ままごと・人形遊び	3	7	10
遊具遊び・公園遊び	1	5	6
自転車・キックボード	2	3	5
かけっこ・追いかけっこ	4	0	4
お絵かき	0	4	4
泥団子・砂遊び	0	3	3
トランプ・ゲーム・パズル	0	3	3
製作	0	3	3
水遊び	0	2	2
プール	1	1	2
サッカー（ボール遊び）	1	1	2
歌・ダンス	2	0	2
ブロック	0	1	1

7）日頃の親子の触れあい遊び

日頃の親子の触れあい遊び（一緒に運動、ボール遊び、じゃれつき遊びなども含む）について、３件法によって得られた結果は図５に示した。図５より、男女児共に、からだを使った触れあい遊びなど親子で遊ぶ機会が多い傾向にある。

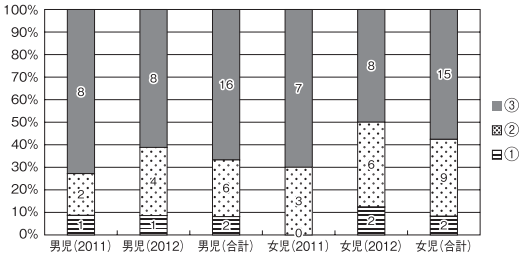


①触れあいの遊びをする機会がよくある
②触れあいの遊びをする機会があまりもてない
③触れあいの遊びをする機会はほとんどない

図５　日頃の親子の触れあい遊び

8）保護者の方の運動状況

保護者の方の運動状況について、３件法によって得られた結果は図６に示した。図６より、③の回答が最も多く、男児の親では67％、女児の親では58％が運動する機会がほとんどないことがわかった。



①運動する機会が週２回以上ある
②運動する機会が週１回はある
③運動する機会がほとんどない

図６　保護者の方の運動状況

また、日頃運動する機会がない母親が多く、その理由は仕事や雑務で多忙のためであった。

表５　運動する機会のない理由

理　由	男児(2011)	男児(2012)	女児(2011)	女児(2012)	総計
仕事や雑務で多忙	4	3	4	6	17
運動が好きでない	1	1	1	0	3
時間がとれない	1	0	0	0	1
機会がない	0	0	0	1	1
子どもを預けるのがたいへん	1	0	0	0	1

9）子どもと一緒にやりたい運動や遊び

子どもと一緒にやりたい運動や遊びを、14項目（親子体操　トレーニング的な運動　ジョギング　サッカー　野球　ダンス　ボール遊び　縄跳び、スケートやスキー　水泳　ゴルフ　一般的な遊び　アウトドアスポーツ　その他（　　））から選択して回答（複数回答可）した結果をまとめたものが、表６－1, 表６－２である。

表６－１　子どもと一緒にやりたい運動や遊び

親子で一緒にやりたい運動	男児(2011)	男児(2012)	男児合計
ボール遊び	5	9	14
親子体操	3	4	7
一般的な遊び	4	3	7
水泳	3	2	5
縄跳び	3	1	4
サッカー	0	4	4
野球	1	3	4
ダンス	1	3	4
アウトドアスポーツ	2	2	4
ジョギング	2	0	2
スキー、スケート	1	1	2
ゴルフ	0	1	1
トレーニング	0	0	0
その他	0	0	0

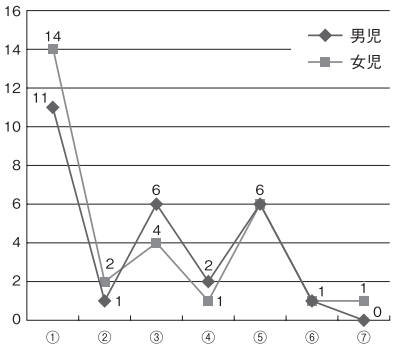
表６－２　子どもと一緒にやりたい運動や遊び

親子で一緒にやりたい運動	女児(2011)	女児(2012)	女児合計
一般的な遊び	6	10	16
ボール遊び	5	9	14
ダンス	5	9	14
親子体操	7	6	13
縄跳び	6	4	10
スキー、スケート	3	6	9
水泳	2	5	7
アウトドアスポーツ	3	4	7
トレーニング	2	1	3
サッカー	0	2	2
ジョギング	1	0	1
野球	0	0	0
ゴルフ	0	0	0
その他	0	0	0

男児の親はボール遊びが最も多く、次いで親子体操や一般的な遊びであった。女児の親は一般的な遊びやボール遊び、ダンス、親子体操などが多かった。

10）今回親子体操に参加した動機

今回親子体操に参加した動機について、６項目（①幼稚園の行事（企画）だから、②子どもが参加したがるから、③子どもと一緒に遊ぶ機会だから、④自分も運動できる機会だから、⑤子どもが友だちと会える機会だから、⑤他の予定がなかったから、⑥その他（　　））から選択して回答（複数回答可）した結果をまとめたものが、図７である。



①幼稚園の行事（企画）だから
②子どもが参加したがるから
③子どもと一緒に遊ぶ機会だから
④自分も運動できる機会だから
⑤子どもが友だちと会える機会だから
⑥他の予定がなかったから
⑦その他

図７　今回親子体操に参加した動機

この質問項目は2012年のみであり、その理由の中では、男女とも「幼稚園の行事だから」という動機が最も多く、次いで「子どもと一緒遊ぶ機会だから」、「友だちと会える機会だから」が多かった。

11）参加し、実施してみた感想（子どもの様子）

参加し、実施してみた感想について、子どもの様子では、７項目（①笑顔多かった、②いきいきとして運動していた、③自分の子の運動レベルがよくわかった、④普段とは違う側面が見られた、⑤子ども同士のコミュニケーションが見てとれた、⑥よそのお子さんの様子がわかった）から選択して回答した結果をまとめたものが、図８－１である。また、参加者自身のことについて７項目（①子どもと一緒にできてよかった（楽しかった）、②日頃の運動不足の解消になった、③思ったよりいい運動になった、④積極的にからだを動かした、⑤思った以上に疲れた、⑥疲れるのでほどほどにしておいた、⑦その他（　　））から選択して回答した結果をまとめたものが、図８－２である。

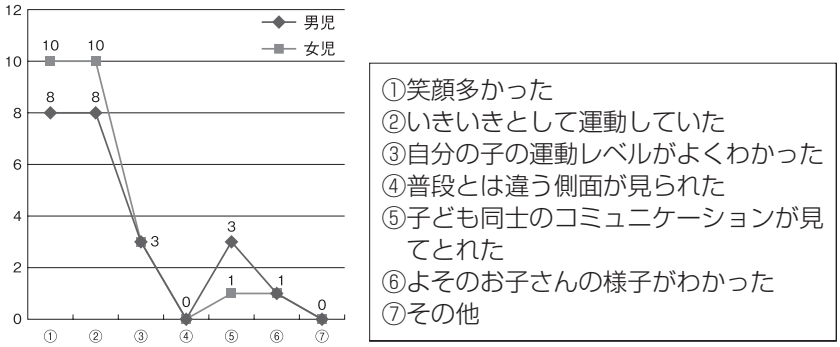


図８　参加し、実施してみた感想（子どもの様子）

この調査項目は2012年のみであったが、男女児の親共に「笑顔が多かった」や「いきいきとして運動していた」の感想が多かった。

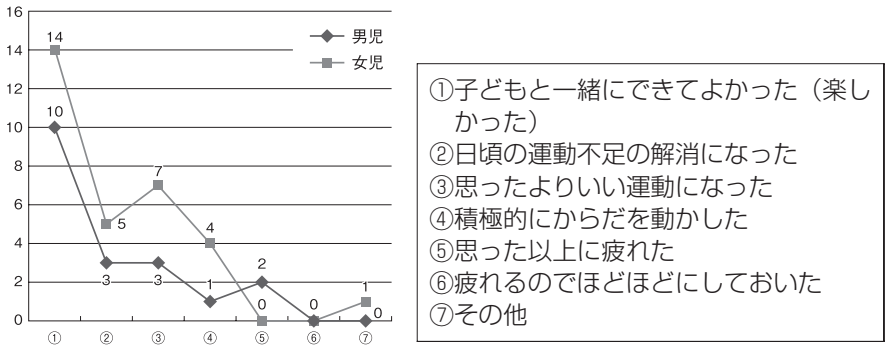


図９　参加し、実施してみた感想（保護者自身のこと）

この調査は2012年のみであったが、男女児の親共に「子どもと一緒にできてよかった」との感想が多く、「日頃の運動不足の解消」や「いい運動になった」と言う感想が多かった。

12）親子体操に参加して感じたこと、今後の希望など

親子体操に参加して感じたこと、今後の希望などを自由記述で回答を求めた結果を表７にまとめた。

表７　親子体操に参加して感じたこと、今後の希望など

自由記述
楽しかったです。
楽しかったです。ありがとうございました。
楽しかったです。
場所が狭いところが残念でした。楽しかったです。
タオル一つでいろいろなことができて楽しかったです。
タオル１本でいろいろな運動ができるのだとびっくりした。
普段やらない種類の運動ができて面白かったです。
日頃できない遊び（タオルなど）ができて楽しかったです。
タオルを使った運動で、年少児には難しいと思うものがあった。
親子体操の機会が多いと親と子どもにリフレッシュできてよいと思います。
子どもとふれあって身体を動かすことを最近忘れがちになっていたのでよかった。
子どもが夏休み中で少し園を離れていて恥ずかしがってしまった。また違う機会にあるといいです。
休みの間はきまった顔ぶれが多いがたくさんのお友達と遊べて楽しそうにしていた。
子どもがあまり参加せずちょっと心配になった。

回答から、親子で参加できたことを楽しめた回答が多く、また運動できたことに喜びを得たこと、久しぶりに友だちと会えてコミュニケーションのよい機会になったことなどが記述されていた。

３．参加したクラス担任からの報告

当日の子どもの様子について、参加したクラス担任（４名）からの報告得たので、表８－１、表８－２にまとめた。その結果、子どもの様子では、どの教員も、親との関わりを観て、普段との違う面が見えたことがわかる。また、親の様子では、どの教員も親子が楽しんでやっている様子や親同士のコミュニケーションの様子が大いに見られたことを確認していた。

表８－１　参加したクラス担任からの報告（当日の子どもの様子）

子どもの様子	かなり観られた	少し観られた	ふだんと変わらなかった	ふだんの方が多かった
ふだんの活動とは違う面	3	1	0	0
笑顔でやっているところ	2	2	0	0
ふだんの体育活動と比べて活発	2	1	1	0
子ども同士のコミュニケーション	1	2	0	1
親への関わりをする場面	3	1	0	0

表８－２　参加したクラス担任からの報告（当日の親の様子）

親の様子	大いに観られた	少し観られた	あまり観られなかった
親子一緒にすることを楽しんでいる様子	3	1	0
親自身が張りきってやっている様子	1	3	0
親同士のコミュニケーションの様子	3	1	0
親が疲れた様子	0	1	0

【考察】

「わくわく親子体操」を実施して、当日のビデオ録画及び参加者への調査、担任へ聞き取り調査などから、指導のねらいが達成されているかを検討する。

１．指導のねらい①「親子の身体接触による運動や体操を行い、子どもが親のからだに触れる喜びを十分に味わうこと」について。

録画分析より昨年度と同様に、親子の身体接触による遊びを十分楽しんで行っている様子や、親自身も運動を楽しんで行っている様子が伺えた。

参加したクラス担任（４名）の報告からも、子どもの様子では、親との関わりが多く見られたとの回答が３名おり、親の様子からも同様に親子一緒にすることを楽しんでいる様子が大いに観られたと回答したものが３名であった。

親への調査から、今回親子体操に参加した動機については、「子どもと一緒に遊ぶ機会だから」と回答したものが29名中10名（34.5％）いた。

以上のことから①のねらいは達成できたと言える。

２．指導のねらい②「タオルやバンダナなどの布を使った遊びを紹介して、家庭で手軽に遊びながら運動し調整力を高める遊びを提供する。」及び、指導のねらい③「リズム要素を含めたダンスや運動を行い、身体のリズム能力を養う。」について。

録画分析より、タオルを使った遊びをいくつか紹介し、実践した。また、休憩中に先に紹介した遊びを反復し遊んでいる様子が伺えた。

遊びの中で、バランスを取ったり、素早い動作を必要とするプログラムを加えて行ったが、何度も繰り返し遊ぶ様子が伺えた。今回は、荷造りテープを使用して幼児用のポンポンを作ってダンスを踊った。

録画分析からも身体でリズムをとって踊っている様子が伺えた。

以上の事から、②、③のねらいは達成できたと言える。

３．指導のねらい④「競争や協力する運動を行い、仲間意識を育てる。」及び、指導のねらい⑤「親も精一杯運動できる機会をつくる。」について。

今回のプログラムでは、競走の要素は特に取り入れなかったが、兄弟での参加が多く、特に大きい子どもたちが互いに協力しあって活動する場面が多く見られた。

親自身が楽しんで行っている様子や、精一杯運動している場面も観られた。また、先生への調査からは、「親自身が張りきってやっている様子」について、「大いに観られた」の回答が１名、「少し観られた」の回答が３名であったことから、親も手抜き無しで活動していた

様子が伺える。

親への調査から、参加の動機について「子どもが友だちと会える機会だから」との回答が12名いたことから、子ども同士のコミュニケーションの場として捉えられていることが伺える。

以上の事から④、⑤のねらいは達成できたといえる。

【まとめ】

「わくわく親子体操」の指導のねらいとして揚げた事項が達成されているかを検討するために、録画記録や調査を基に分析検討した。この結果からは親子共に楽しく参加できたことを確認することができた。しかし、この結果を十分検討するだけのサンプル数が十分とは言いがたいので、今後も継続的に企画実施と研究を積み重ねていきたい。そして、親子のふれあい体操やダンスの実態から、親子間の関係やコミュニケーションについての分析方法について更なる研究が必要と思われるので、検討課題としていきたい。文末を借りて、この研究にご協力を下さった本学附属第二幼稚園の関係者の方々に感謝を申しあげます。

引用・参考文献

1．宮下恭子　親子の運動遊びに関する一考察―「わくわく親子体操」の実践から―　2011年12月　日本乳幼児教育学会第21回大会　研究発表論文集　pp.100-101
2．宮下恭子　親子体操の実践的研究　2012年９月　日本幼児体育学会　第８回大会　講演要旨・研究発表抄録集
3．前橋明　いま、子どもの心とからだが危ない２　大学教育出版　2008　４月
4．前橋明　生活リズム向上大作戦　大学教育出版　2006年６月